



陽光降り注ぐ天空のオアシス

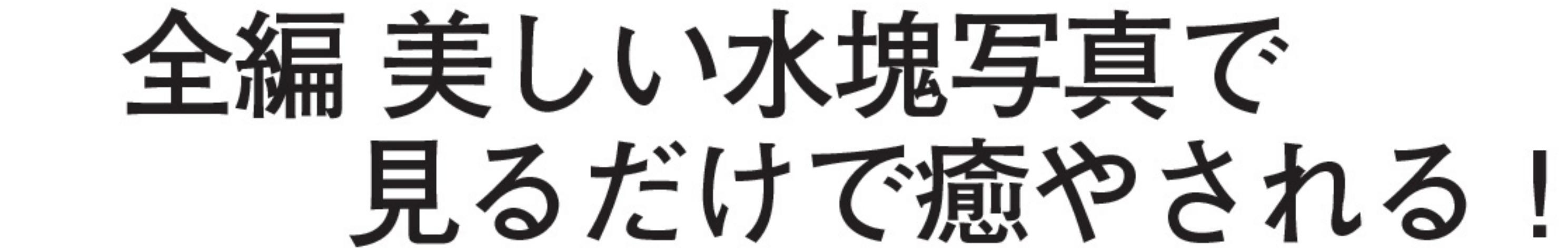
現代のめまぐるしい日常の中で、少といに乾きを感じたとき、開いを求めて首都圏の人々が訪れるのが「天空のオアシス」サンシャイン水族館だ。

2011年に最新の「水境」を持つ水族館として生まれ変わったサンシャイン水族館が、17年さらには進化を遂げた。その名通りサンシャイン（＝心地よい陽光）をまとった新たな天空のオアシスとして再び生まれ変わったのだ。

ビル屋上のエレベーターを降りると、滝の流れ落ちる水面で一気に都会からオアシスへと世界が変わる。植物の緑が眩しい屋外から、草原にはゼンギンやカワウソンが遊び、アマゾンの奥では魚が空にジャンプする。

そして天空のオアシスを駆けすぎるのが、「都会の空を泳ぐ天空のゼンギンと天空のアシカたちだ。青空を世界にする」という。「今まで広がる海を再現した」の特徴的な展示は、私たちをまるで動物たちと同じ海にいるかのように錯覚させる。地理と海の境きを感じる至福の時だ。

9



「おひただきます!」の水族館。

◆水族展示と水塊の魅力を一冊に凝縮！



どこまでも盛り上がるサンゴ礁のラグーン。そこにこんなヌベーブがあるのかと驚くほど奥行きを感じさせます。

左写真：ラグーンを背景に舞うチョウチョウウオ
中央写真：マイワシの静れをコブダイが乱す
右写真：浮遊感たっぷりのクラゲトンネル

サンシャイン水族館の水槽はどれも、私たちを一瞬にして地球上の多様な水中世界へとワープさせる。屋内2層（ビル11階）は陸の水域エリアだ。コバルトブルーの1階から一転して緑の光があふれる感覚へと変わる。

この陸地エリアでは、世界の様々な水辺を探検するように回りたい。小さな魚になつて水草の中に入り込み、熱帯のデルタ地帯をすり抜け、南米のかエルたちや冰が砾る湖のバイカルアザラシと擦身を交わす。

日本の川の清流池にたどり着けば、輝かな朝光が川底で揺れる水草を音で、魚たちをキラキラと光らせている。

この水族館では、大人が重心に戻る必要はない。大人は大人の感性のままで、十分に潤いと癒やしと充電を得、子どもは子どもで生きの水中世界を見つけられる。

サンシャイン水族館のリニューアルは、筆者が展示プロデューサーとして関わってきた。少しばかりひいき目である「JAPANお詫し願いたい。

ヨコタヨウサブロはあやかのマイムに大感動! 感謝するかのように

日本一のイルカショーと
ペンギン王国



Adventure World



「ハサムは西野さん」、おう。ビーチがご当地で開拓された。ハサムは西野さんとおしゃべりする。ハサムは西野さんとおしゃべりする。ハサムは西野さんとおしゃべりする。

マニアも唸

マニアも唸る深い解説！